

革命の旗

共産主義者同盟
(革命の旗)
中央機関紙

第36号
1981.3.20
6頁 200円
(毎月5日、20日発行)
発行人 北沢晋
発行所 赤流社
電話 (03)787-7699
東京都世田谷区千歳
郵便局 私書箱4号
振替 (東京)7-86947
定期購読料(22回分)
手渡し3000円(送料共)
開封3500円(送料共)
密封4000円(送料共)

今号の主な内容

論文 「北方領土問題とアイヌ民族の自決権について」
単一党建設にむけての論戦—赤報派批判(上)
寄稿 教育の愛国—軍国主義の再編
一教師から
小西同志虐殺一周年
再びわが同盟は決意する

集合での動労千葉組合員の発言
三塚三郎燃料輸送延長
阻止を掲げる動労千葉は、三月
二日から七日までの六日間、歴
史的なストライキ闘争を実現し
たい。(三・六津田沼駅前
集會での動労千葉組合員の発言)
三塚三郎燃料輸送延長
阻止を掲げる動労千葉は、三月
二日から七日までの六日間、歴
史的なストライキ闘争を実現し
たい。(三・六津田沼駅前
集會での動労千葉組合員の発言)
三塚三郎燃料輸送延長
阻止を掲げる動労千葉は、三月
二日から七日までの六日間、歴
史的なストライキ闘争を実現し
たい。(三・六津田沼駅前
集會での動労千葉組合員の発言)

＝社会主義労働運動の創建めざし＝

攻勢的党と統一戦線の建設に着手しよう!

同志諸君、読者諸君、81春期政治・経済闘争の幕はあがった。三・一ジェット燃料貨車輸送延長阻止・動労千葉スト支援全国総決起集會から、三・六動労千葉二日間ストライキまでの闘いは鈴木政府、警察、国鉄当局、空港公団、そして社・共、革マルの反動的敵対に抗して闘いぬかれた。そして全国の闘う労働者に深い感銘と勇気を与え、労働者階級が被搾取労働者階級に対する全人民的指導権をもちた確かな一歩を形成し、かつ右翼的「労働統一」に対する痛打をあげた。これまでの「労働統一」の質が、よりはっきりと賃金奴隷制の撤廃、農業の集団化をめざす新たな「労働団結」の質へと高められるであろう。と同時に、「労働団結」の質が、よりはつきりと階級的労働運動構築の一大奔流が始まった。この闘争の敢闘に学び、わが81春期ストライキ闘争の物質化の闘いを資本・労働貴族、社帝派、警察の反動的敵対に抗し、さら

安保粉砕・改憲阻止する 革命的な反戦闘争の大道を

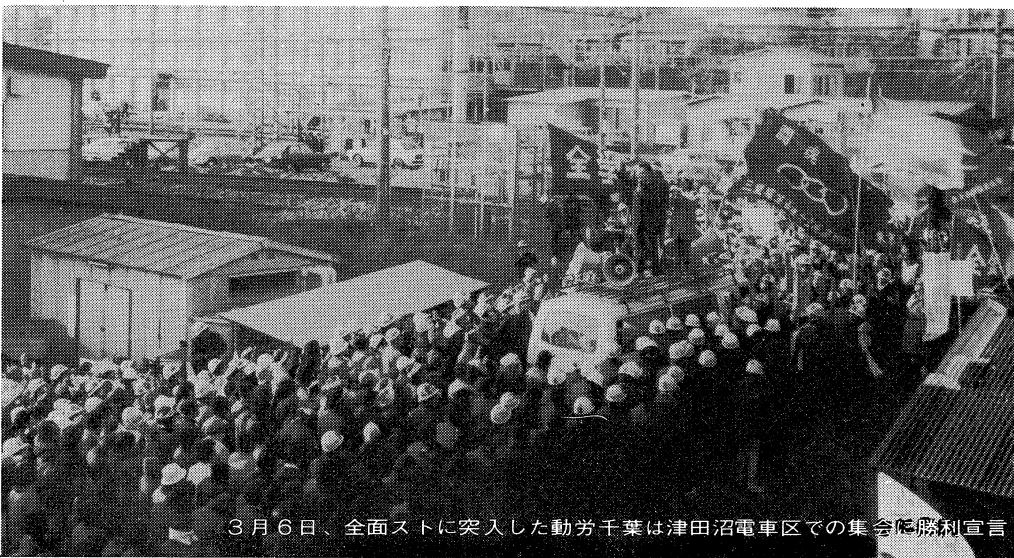
鈴木政権は、日本階級闘争の春期大攻勢を見すえ、新年早々のASEAN歴訪につき、五月四日レーガンとの日米首脳会談へ出発する。参動交代である。しかし、それだけではない。日・米帝の危機が進行しているのである。この会談の最大の眼目が、ソ連社帝の攻勢と第三世界の民族解放闘争の前進、イラン革命、イラン・イラク戦争を通じて中東での政治的軍事的影響力の後退、西欧・日本との経済対立の激化の中で、カーターに代わって強いアメリカを掲げ対ソまき返しをはかる米帝レーガンと、日米自動車戦争を回避し、軍事大国化を進め、朝鮮半島とASEAN諸国を経済的に、また政治・軍事的に支配し、石油ルートを実力防衛せんとする日帝鈴木による日米安保体制の帝国主義的従属的軍事同盟のうち固めることは明白である。

業が求められて(ワインバーガー) 一発言「周辺海域の防衛のため対潜水艦能力と防空能力が必要」(マンスフィールド発言)。この米帝の要請にこたえ、鈴木政府は八一年度予算で軍事費の伸び率を七・六%とし、戦後初めて社会福祉の伸び率をぬいた、大軍事拡大予算を決定した。また、マンスフィールド発言の三日後の十二日、防衛庁はF15とF3Cオライオンについて「五七年度に、もともとの発注予定分に加え、五九年度発注予定分の全部または、一部を上のせし繰りあげ発注をするよう予算要求する」との方針を発表した。このように、日米安保体制の再編・強化は、形式的には、米帝の要請に日帝がこたえる形で、具体的に進行しているのだ。

改良主義と明確に一線ひき ML主義の第三次ブンドへ

日米安保体制の帝国主義的従属的軍事同盟の再編・強化は、六九年日米共同声明以降、特に七八年日米防衛協力ガイドライン決定以降、特に進んでいる。「日本の自衛能力を著実に、実際に加速させ、顕著に増強すること」は、日本が共通の安全保障利益のため、より効果的に働くことを可能とする。中期業務見積りの予定を一年間早めるよう勧めた。(以上「八一年米国防白書」)、「北大西洋条約機構(NATO)及び日本は米国と協力して共同防衛に一層貢献する分

事態は具体的である。それは現在、日米安保体制・憲法・防衛問題にいかなる態度をとるかとして問われ、ふるいにかけておられる。こうした諸点をめぐり、政治派の分化・再編、対立と統一が具体的に進行している。それはどのようにならなければならないか、作らなければならないかを問うものである。実際、多くの党派が「党と統一戦線」問題に関して提起している。「広範な人民の政治的統一戦線の構築(烽火)」、日帝打倒問題に関して、単一党建設を対置



3月6日、全面ストに突入した動労千葉は津田沼電車区での集會に勝利宣言

革命「国家と革命」の問題に対する態度から、大きく四つの政治潮流に区分しようと考えている。第一の潮流は、社・公・民、エセ「毛派」の「経営参加」の独占とのユ着、「連合政権」のブルジョア国家権力ユ着、その反映としての「自衛隊・安保体制の承認、祖国擁護主義の潮流」である。この中で、社会党は、「軍事大国化阻止」護憲を掲げ、社・公の「護憲国民共闘」を結成しようとしている。しかし、日米安保体制を承認した上でのこの軍事大国化阻止・護憲闘争などベテンの何物でもない。第二の潮流は、日共、協会派、「平和と社会主義」派、等「非同盟・中立・自衛」と「安保・反軍拡」を結びつけた反米祖國擁護主義、経営民主化の中小資本とのユ着、議会主義、組合主義の潮流である。これに対し

- ### 集案内
- 4/1 小西同志虐殺一周年報告集案
 - 四月一日(水)六時半 中小企業婦人会館(東横線武蔵小杉)主催・真相を糾明する会 共産同神奈川県委
 - 4/7 首都圏労働者春闘総決起集案
 - 4/18 日韓連帯集案(豊島公会堂 主催・実行委)

81春闘と労働貴族の動き

総評指導部の同盟への屈服

いま春闘は大きな転換にさしかかっている。81「管理春闘」といわれる、国家権力・資本・労働貴族一体となった労働者階級の反攻の鎮座は何を示しているのか。五〇年代後半から六〇年代にかけて成立してきた「春闘構造」は、戦後労働運動の戦闘性・原則性を解体させ、本主義を基調に帝国主義的高成長の分け前運動に改良運動となってきた。しかし、いまこのことは帝国主義体制の危機のなかで、折れた帝国主義的強欲の拡大によってかえられようとしている。

昨年、総評は高専事務局長の提案（彼特有の思いつき）で全組合員を対象にアンケートを行った。そこでは三〜五万円の賃上げ要求が決して突飛なものではなく組合員の大衆的声、常識的要求であることがはっきりと示された。ところが、いざ要求額決定という段になると十〜二十万円以上に切り下げられてしま

った。総評は高専事務局長の提案（彼特有の思いつき）で全組合員を対象にアンケートを行った。そこでは三〜五万円の賃上げ要求が決して突飛なものではなく組合員の大衆的声、常識的要求であることがはっきりと示された。ところが、いざ要求額決定という段になると十〜二十万円以上に切り下げられてしま

った。総評は高専事務局長の提案（彼特有の思いつき）で全組合員を対象にアンケートを行った。そこでは三〜五万円の賃上げ要求が決して突飛なものではなく組合員の大衆的声、常識的要求であることがはっきりと示された。ところが、いざ要求額決定という段になると十〜二十万円以上に切り下げられてしま

管理春闘うち破ろう

植枝総評議長は「労働者の生活実感から来る要求を基本にしなからず、物価上昇率、経済成長率など客観的な経済動向と各産別間にもよりの他のナショナルセンターとの調整も当然必要となってくる」とのべて、いとも簡単にアンケート結果をにぎりつぶした。組合員の声を

置して行革に「積極的に」とりくむことを明言した。そして交通共闘から私鉄総連を切りはなし、国労、動労を孤立させ、そこに二〇億円の損害賠償請求をぶつけることによって国労、動労から「国鉄再建協力」を引き出すことに政府・国鉄当局は成功した。

こうした、官公労に対する行政改革の世論をおおっての攻撃（日共もそれに役立ったこと）を忘れるな、が、帝国主義的国家再編の重要な戦略的一环をなすものであることは、今こ

で詳しくのべないが政府・当局の官公労弱体化、柔軟路線への変質をねらう戦略はほぼ達成されつつある。

このように同盟労組と要求規準の足並みをそろえ、自衛自賛「労戦統一」を、「この道を行く以外にない（富塚）」として推進する総評労働運動の行きつく先はもはや明白である。

わが同盟の81春闘スローガン

- * 81春闘を社会主義労働運動の旗を掲げて闘い抜け！
- * 低額「要求」反対！
- * ストナなし春闘反対！
- * 賃上げ、反合闘争をストライキで闘え！
- * 労働者下層の決起を促し「管理春闘」を打ち砕け！
- * 労働組合から労働貴族を追放せよ！
- * 右翼的「労戦統一」反対！
- * 統一労働組組「反対」
- * 労働者の階級的統一を！
- * 三里塚労働者ジェット決戦勝利！
- * 朝鮮南半部人民と連帯し、政治反動と闘い、日帝の侵略反革命、戦争準備と対決せよ！
- * ポーランド人民の闘い断固支持！
- * 職場・地域から反戦反安保の闘いをつくり出せ！
- * 安保粉砕、日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義革命の旗のもと、革命的な反戦闘争を構築せよ！
- * 社共にかわる前衛党を創設せよ！

では、「管理春闘」を打ち破る力はどこにあるのだろうか。それはこの「管理春闘」のみならず、二〇〇数年間の春闘型労働運動ともいべき民間労働運動の中で切りすてられ、低賃金と生活苦の中に置きさらされてきた下層、とりわけ未組織下層労働者の怒りと闘いエネルギーを噴き出すことである。

今日の事態の進行は、民間指導部が作りあげてきた労働運動には、それ自体の力によって自らを戦闘的に再生させる能力がほぼ完全に失われていることを示している。

三月一日、芝山町の飛行コース下の水田にジャンボ機のエアムカバが落下した。このエアムカバは長さ四メートル、幅

七〇センチ、重さが五〇キロもあり、幸い人命に被害はなかった。しかし、もし人家に直撃していたら大災害になるであろうであった。

今まで報道されたものは以下のとおり。八〇年六月、横芝町の人家の庭先にコブシ大、重さ一キロの水塊が落下。この家の住人はただちに公団に抗議したが、ふたたび今年三月十三日に同家の屋根を水塊が直撃した。

今年一月三日には松尾町道を歩いていた老人の目前十メートルに直径五〇センチの水塊が落ち、すんでのところで助かるといふ事態がおき、三月二日には横芝町山林に、芝山町に落ちたものと同じエアムカバが落下している。

4,7 首都圏労働者春闘総決起集会

日時 四月七日午後六時〜八時（集会後デモ）
場所 日本教育会館大ホール（地下鉄新宿線、都営6号線各神保町駅、東西線竹橋下車）
主催 集会実行委
連絡先 「労働情報」

帝国主義的労働統一に抗し、階級的労働運動の再構築をめざした闘いが、いま先進的労働者の手づくりだされ始めている。本集会は、81管理春闘に反対し、職場と地域から創造的なストライキを敢然と組織するに奮闘しよう。

廃港による以外ないことを知り恐れているからに他ならない。二期工事阻止、廃港「闘う農業」の確立にむけて闘いを前進させよう。（H）

三月十一日、政府一公団の七〇年九月千葉農地収用委員会開催を皮切りに農地の強制代執行にいたる、いわゆる三里塚第一代執行に対する反対行動で、不当にも逮捕され、十年にわたる裁判闘争をくりひろげてきた一被団五一人の名の判決公判が千葉地裁で開かれた。

第一次代執行 全員に有罪判決

ただちに控訴
三月十一日、政府一公団の七〇年九月千葉農地収用委員会開催を皮切りに農地の強制代執行にいたる、いわゆる三里塚第一代執行に対する反対行動で、不当にも逮捕され、十年にわたる裁判闘争をくりひろげてきた一被団五一人の名の判決公判が千葉地裁で開かれた。このなかで近藤裁判長は、反対同盟農民を先頭とする統一被団五のねばり強い闘いによって、三里塚への空港設置には当初より専門家から異論が言われていたこと、(2)農地の収用にあたって現地反対同盟との意志がなかつたこと、(3)政府一公団の強制代執行に対し、反対同盟農民が主張したところ、その占有権を主張したところについては正当であった旨を認めざるえなかつた。しかし、国家事業であり、土地収用委員の代執行は誤りはないとして農地収奪を合法化し、反対行動を違法・不当として全員に有罪判決を下した。判決後、ただちに二人の控訴保釈をもち、統一被団五として今後とも控訴審を闘いぬくことを確認した。

在本土沖繩青年からの手紙

この一文は読者から編集部へ宛てられた手紙ですが、事態の重大さにかんがみ、筆者の同意のもと一部加筆していただき全国のみなさんに送るものです。（編集部）

元上役刺傷事件の教えるもの 「差別を許さぬ下層労働者の団結を！」

取扱い、要約する次のように事件を報告しています。「沖繩県生まれのKは以前勤めていた「丸九建設」の元上役Wを待ちぶせして文化包丁で首を刺した。警察の調べに対しKは、Wにいつもヘドロボばかり運ばせられた。イヤがらばせをしたり、陰口を叩いたりして自分を差別していたと自供している。さらに、彼は日ごろから、人を差別するな、と口ぐせのように言っていたと話している」とのこと。また朝日新聞によると、「自分の裸の写真を運転手仲間にバラまかれたので殺そうと思つた」とも云っているそうです。警察は「こうしたことと合わせて、彼の経歴として十九歳の時、バイクを盗み検挙されたこと、そして「こういふ奴ならやりかねん」と句をつけています。ここまでくれば、ああ、あの

塚 空港周辺に落下物

三月一日、芝山町の飛行コース下の水田にジャンボ機のエアムカバが落下した。このエアムカバは長さ四メートル、幅

3.10日大文理の学生を不当逮捕

反憲学連へのテコ入れは
三月十日、この間日本大学文理学部において右翼ファシスト連隊の闘いをおこなってきた学生友六名が不当にも逮捕された。全ての学友は、この弾圧に怒りをこめて反撃しよう。日大の文理の学友たちは大学当局・国

わが同盟の81春闘スローガン

- * 81春闘を社会主義労働運動の旗を掲げて闘い抜け！
- * 低額「要求」反対！
- * ストナなし春闘反対！
- * 賃上げ、反合闘争をストライキで闘え！
- * 労働者下層の決起を促し「管理春闘」を打ち砕け！
- * 労働組合から労働貴族を追放せよ！
- * 右翼的「労戦統一」反対！
- * 統一労働組組「反対」
- * 労働者の階級的統一を！
- * 朝鮮南半部人民と連帯し、政治反動と闘い、日帝の侵略反革命、戦争準備と対決せよ！
- * ポーランド人民の闘い断固支持！
- * 職場・地域から反戦反安保の闘いをつくり出せ！
- * 安保粉砕、日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義革命の旗のもと、革命的な反戦闘争を構築せよ！
- * 社共にかわる前衛党を創設せよ！

元上役刺傷事件の教えるもの 「差別を許さぬ下層労働者の団結を！」

事件か、と気づかれたらと思ひます。この事件は単なる「殺人未遂事件」として見過ごすこともできるかも知れません。でも、ちよつと待つて下さい。この事件に大小の差はあれ、少なくともショックを受けた人達がいます。沖繩出身の青年たちがそれぞれ、生活環境、習慣、言語、その他さまざまな異和感のなかで生活を営まされてきています。そこでは、自分の考えていること、悩みなどについて共に考えていく仲間を持つて、職場を去り、転々と職をかえていく。とくに労働者として職場の中にいたたかれ、権利が奪われている以上に、労働者が分断されている状態を意味します。

3.10日大文理の学生を不当逮捕

反憲学連へのテコ入れは
三月十日、この間日本大学文理学部において右翼ファシスト連隊の闘いをおこなってきた学生友六名が不当にも逮捕された。全ての学友は、この弾圧に怒りをこめて反撃しよう。日大の文理の学友たちは大学当局・国

4,7 首都圏労働者春闘総決起集会

日時 四月七日午後六時〜八時（集会後デモ）
場所 日本教育会館大ホール（地下鉄新宿線、都営6号線各神保町駅、東西線竹橋下車）
主催 集会実行委
連絡先 「労働情報」

寄稿

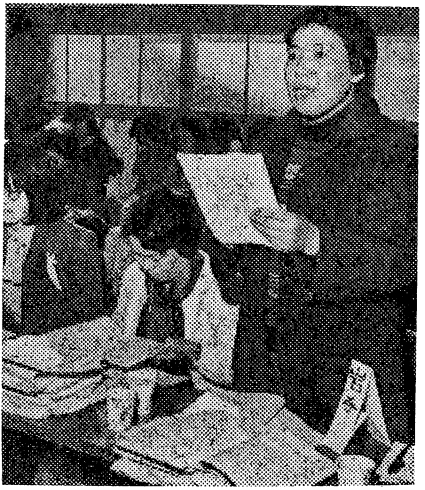
教育の愛国軍国主義的再編

社会党の無力化・日共の「聖職論」を弾劾し闘おう

教育労働者

自民党の文教政策と日教組運動の変化

七月、教育指導要領の改訂に至る攻撃は、教職員をその意識と労働条件において他の労働者から明確に区別することを主眼にかけられたものであったといえます。



教育研究全国集会の討論 (2月16日、於東京)

さらに、教育問題小委員会では、学校教育を国家権力の支配の有効な手段として機能させるために、教師の意識と行動を支配の枠内にとりこめ、忠良の士にせんとする策動を練っています。

日教組運動の階級的再生めざし

二月の中央委員会で「愛国国防教育の強調、日の丸・君が代の強制など教育の軍国主義化を阻止するための大衆的運動を、平和教育を推進し民主教育」を掲げました。

金井康治君の年度内転校を實現させよう

三月五日から連続して、足立区教育委員会に対し、金井康治君の花畑東小学校への年度内転校と、確認書に基づいて抗議する行動がたたかわれています。

日弁連大阪パネル 3.7 なんていう欺瞞

刑法改善、保安処分粉砕をかかげ、労働者、市民、学生三百名が、国民会館前の大手前公園に結集し、午前と午後二波にわたって戦闘的デモを貫徹した。

八月の答弁に発しているのです。このこと一つみても、現在行われている教育論議の政治性格が、改憲・防衛論議と一体となつた総合安保体制、戦争準備にむけた教育再編、愛国主義軍国主義教育の確立をめざしたものであることは明白です。

同様に、「日の丸・君が代」に国旗国歌であることの法的根拠が全くないという事実だけでなく、その導入が、当時の防衛庁長官三原の「自衛隊の士気にかかわる」という発言を機に、なされたという政治的背景をみれば、より明らかになるでしょう。

すなわち、戦前の天皇制教育とひとつながりの「国家の教育権」を前面におして、「国民教育論」を復権させんとすること。したがって「反戦平和的教育」「国民の教育権」を最終的に「掃せん」とする攻撃であることは、火を見るより明らかです。

このように攻撃は、七月にも予定される「生涯教育」に関する中教審答申によってさらに加速され、軍産・産学をつらぬく、家一挙の攻勢に出ています。

新潟県の柏崎・巻原、石川県の能登、佐賀県の玄海などの労働者、農漁民、地域住民の反対運動を弾圧し、更に原発推進を計ろうとする自民党の「決意」は、このリコイル戦に際し、幹事長をおくりこみ「国策」としての原発推進を強要したことにみても、明らかである。

三月五日から連続して、足立区教育委員会に対し、金井康治君の花畑東小学校への年度内転校と、確認書に基づいて抗議する行動がたたかわれています。

刑法改善、保安処分粉砕をかかげ、労働者、市民、学生三百名が、国民会館前の大手前公園に結集し、午前と午後二波にわたって戦闘的デモを貫徹した。

資本主義的生産に終止符をうち、社会主義をうちたてて真に人間が社会的主人公となり、自然に對しても統制できる(またそれはあらゆる生産手段に対する隷属からの解放)ことを追求する存在である。まして現段階にある労働過程の再編は今日の技術革新がもたらす災禍以上に労働者を圧迫している。そしてこのことと不可分に独占資本による原発推進は、より人間と自然との対峙関係をいままでも以上に破壊すること。それ故、人間の生存活動を基本的にあやうくする。まさにわれわれ労働者階級が

七七年の指導要領以降の攻撃の特質

七七年教育指導要領改訂後の現在の攻撃は、七〇年から一連の攻撃を第一とすれば第二次中教審攻撃といつてもよいものであり、八〇年小学校、八一年中学校、八二年高等学校指導要領実施をめぐり、愛国主義・軍国主義教育再編をめざしたものと見られる。

このように攻撃は、七月にも予定される「生涯教育」に関する中教審答申によってさらに加速され、軍産・産学をつらぬく、家一挙の攻勢に出ています。

新潟県の柏崎・巻原、石川県の能登、佐賀県の玄海などの労働者、農漁民、地域住民の反対運動を弾圧し、更に原発推進を計ろうとする自民党の「決意」は、このリコイル戦に際し、幹事長をおくりこみ「国策」としての原発推進を強要したことにみても、明らかである。

三月五日から連続して、足立区教育委員会に対し、金井康治君の花畑東小学校への年度内転校と、確認書に基づいて抗議する行動がたたかわれています。

刑法改善、保安処分粉砕をかかげ、労働者、市民、学生三百名が、国民会館前の大手前公園に結集し、午前と午後二波にわたって戦闘的デモを貫徹した。

資本主義的生産に終止符をうち、社会主義をうちたてて真に人間が社会的主人公となり、自然に對しても統制できる(またそれはあらゆる生産手段に対する隷属からの解放)ことを追求する存在である。まして現段階にある労働過程の再編は今日の技術革新がもたらす災禍以上に労働者を圧迫している。そしてこのことと不可分に独占資本による原発推進は、より人間と自然との対峙関係をいままでも以上に破壊すること。それ故、人間の生存活動を基本的にあやうくする。まさにわれわれ労働者階級が

資本主義的生産に終止符をうち、社会主義をうちたてて真に人間が社会的主人公となり、自然に對しても統制できる(またそれはあらゆる生産手段に対する隷属からの解放)ことを追求する存在である。まして現段階にある労働過程の再編は今日の技術革新がもたらす災禍以上に労働者を圧迫している。そしてこのことと不可分に独占資本による原発推進は、より人間と自然との対峙関係をいままでも以上に破壊すること。それ故、人間の生存活動を基本的にあやうくする。まさにわれわれ労働者階級が

資本主義的生産に終止符をうち、社会主義をうちたてて真に人間が社会的主人公となり、自然に對しても統制できる(またそれはあらゆる生産手段に対する隷属からの解放)ことを追求する存在である。まして現段階にある労働過程の再編は今日の技術革新がもたらす災禍以上に労働者を圧迫している。そしてこのことと不可分に独占資本による原発推進は、より人間と自然との対峙関係をいままでも以上に破壊すること。それ故、人間の生存活動を基本的にあやうくする。まさにわれわれ労働者階級が

「校内暴力」と「国家の教育権」の前面化

現在の教育再編の本質は、石油ショック、被抑圧民族の解放闘争の前進によって暴露された、日本帝国主義的経済的支配体制の危機を、競争体制の構築によってのりきらんとするブルジョア階級独裁の忠実な下僕として、教育体制をうちかためようとする以外の他では

また、一月下旬、文部省・通産省・財界の露骨な介入による原発、商社、広告などの教科書書きかき事件の発覚は、現在の検定制度を解体し、軍国愛国の記述を欲し、いまにその固定教科書への道を進みはじめたこと、したがって教育基本法そのものの解体に向けた攻撃にでていることを示しています。三月、自民党は教科書問題を「国民運動」としてとりあげることを決定し、その野望をはたさんとしています。

高知県窪川町における原発(四国電力)誘致派の町長リコイル戦での原発誘致反対派の勝利は、これを推進せんとする政府・独占資本に一大痛打をあげたものであった。

高知県窪川町における原発(四国電力)誘致派の町長リコイル戦での原発誘致反対派の勝利は、これを推進せんとする政府・独占資本に一大痛打をあげたものであった。

高知県窪川町における原発(四国電力)誘致派の町長リコイル戦での原発誘致反対派の勝利は、これを推進せんとする政府・独占資本に一大痛打をあげたものであった。

高知県窪川町における原発(四国電力)誘致派の町長リコイル戦での原発誘致反対派の勝利は、これを推進せんとする政府・独占資本に一大痛打をあげたものであった。

高知県窪川町における原発(四国電力)誘致派の町長リコイル戦での原発誘致反対派の勝利は、これを推進せんとする政府・独占資本に一大痛打をあげたものであった。

高知・窪川町民の勝利!

日本帝国主義の危機と原発の階級の本質をつかもう

高知県窪川町における原発(四国電力)誘致派の町長リコイル戦での原発誘致反対派の勝利は、これを推進せんとする政府・独占資本に一大痛打をあげたものであった。

高知県窪川町における原発(四国電力)誘致派の町長リコイル戦での原発誘致反対派の勝利は、これを推進せんとする政府・独占資本に一大痛打をあげたものであった。

高知県窪川町における原発(四国電力)誘致派の町長リコイル戦での原発誘致反対派の勝利は、これを推進せんとする政府・独占資本に一大痛打をあげたものであった。

高知県窪川町における原発(四国電力)誘致派の町長リコイル戦での原発誘致反対派の勝利は、これを推進せんとする政府・独占資本に一大痛打をあげたものであった。

高知県窪川町における原発(四国電力)誘致派の町長リコイル戦での原発誘致反対派の勝利は、これを推進せんとする政府・独占資本に一大痛打をあげたものであった。

「革命の旗」に投稿を?

張も投四文、主の極数は論部、験の積は編、の働の信枚す、んらん通三ま、皆の皆す。一し、人多、紙で、人も、紙で、友のため、用度、りた、か、原程、読ひす、呼、字、をの、稿百は

張も投四文、主の極数は論部、験の積は編、の働の信枚す、んらん通三ま、皆の皆す。一し、人多、紙で、人も、紙で、友のため、用度、りた、か、原程、読ひす、呼、字、をの、稿百は

張も投四文、主の極数は論部、験の積は編、の働の信枚す、んらん通三ま、皆の皆す。一し、人多、紙で、人も、紙で、友のため、用度、りた、か、原程、読ひす、呼、字、をの、稿百は

張も投四文、主の極数は論部、験の積は編、の働の信枚す、んらん通三ま、皆の皆す。一し、人多、紙で、人も、紙で、友のため、用度、りた、か、原程、読ひす、呼、字、をの、稿百は

張も投四文、主の極数は論部、験の積は編、の働の信枚す、んらん通三ま、皆の皆す。一し、人多、紙で、人も、紙で、友のため、用度、りた、か、原程、読ひす、呼、字、をの、稿百は

張も投四文、主の極数は論部、験の積は編、の働の信枚す、んらん通三ま、皆の皆す。一し、人多、紙で、人も、紙で、友のため、用度、りた、か、原程、読ひす、呼、字、をの、稿百は

張も投四文、主の極数は論部、験の積は編、の働の信枚す、んらん通三ま、皆の皆す。一し、人多、紙で、人も、紙で、友のため、用度、りた、か、原程、読ひす、呼、字、をの、稿百は

政治警察「ゼンボウ」の中傷とデマを弾劾する

真相を糾明する会

小西同志が虐殺されてから一年がすぎようとして、月日のたつことの早さに驚きながらも、未だにこの事件の真相を明らかにし、その成果を小西同志の霊前に報告できないのが残念でならない。

四月七日の小西同志追悼集会に於ける真相糾明・階級の報復貫徹の立場の確立のうえに設置されたものである。しかしその活動の多くはこの事件を利用した神奈川県警一捜査本部による活動家への聞きこみ(職場、自宅におしかけての強要)や刑訴法二六条による証言強要という「捜査」に名をかりた弾圧との闘いに費やされてきた。この闘いの中で糾明する会は、政治警察と原則的に対決し、県下の活動家と大衆運動を防御しぬいてきたと考える。

また捜査当局(それに結託したマスコミ)が意図的に流す、様々な悪事をつまらざるデマキャンペーンに對しても闘いぬいてきた。ラジオ関東のニュース番組での小西同志への中傷に對して抗議声明を發したのもその一つである。

小西同志虐殺一カ年

再びわが同盟は決意する!



この抗議声明に對して、番組のニュースレポーターと稱する人物が、かの悪名高き右翼雑誌『ゼンボウ』(三月号)で「小西さんは川崎市に保母として採用されたのであって、市民は彼女が成田闘争へ行くために税金を納めているのではない」というまったく許しがたい暴言をいっている。そしてこの事件をいわゆる「内ゲバ事件」と同列に扱って、党と活動家への弾圧を政治警察に要請しているのである。

政治警察のお先棒をかついで小西同志の人格を傷つけ、彼女と共に闘ってきた多くのの人々を

共産主義運動の新たな前進をもつて遺志を継ぐ!

共産同(革命の旗)神奈川県委

八〇年三月二日、小西同志が何ものかに虐殺されてから一年がたつた。われわれはこの一年、小西同志虐殺を利用した神奈川県警の組織破壊攻撃、ラジオ関東を始めとしたブルジョアマスコミの反革命キャンペーンを打ち砕き、党と労働者人民を完全に防御してきた。それとともに、革命的な反戦闘争を中軸に労働者階級の政治的武装・組織化を大胆におし進め「戦争と革命」の八〇年代を領導すべく、革命党建設の大きな地歩を築きあげた。



(1) 二回大会までの細胞活動について

「責任の分散と指導の集中」「新聞を軸とした党活動」は、党の非合法化・地下化と一方における大衆化、又党の中央集権化を要求するものであった。そして、このことは党員にとっては真の意味で一人の共産主義者として自立し、何を要求しているか、中央委員会や地方委員会が常に正しい指導をするとは限らない(その場合は断固として批判し、必要ならつてかわる)と投獄されたり虐殺される(その次の瞬間から新たな委員を生み出して)可能性は高まるとも、中央との連絡がとれずとも、一人になろうとも、細胞をつくり労働者大衆を指導していかねばならない。

計画を立て いきすぎを恐れず 大胆な工場・地域工作へ!

A 地方委員会 △△ 地区細胞

細胞独自の拠点建設計画を立ててきた。そのためにまず第一に問われたことは、細胞活動の整備・簡素化であった。この場合とは次のことである。われわれは政治的・綱領的に労働者階級を代表しつつも、組織的にはほんの一握りの労働者しか代表していないことである。このことをつまら、わが細胞が現在もなっている諸条件にしばられることなく、本来の労働者を自己解放闘争に引き入れ、党建設の闘いに引きずり込むためにもつと適

り、調査し防衛しきつてきた。すでに捜査本部は事件の迷宮入り宣言が、折あるば弾圧にうつてんとしている。このことを小西同志の霊前に痛恨の思いをわびなければならぬが、この調査の過程で政治警察による悪質な策動のいくつかを摘発し、容疑者の扱われた活動家へのデッチ上げを許さない立場から事情聴取を行(三月十六日)

われわれは、その志半ばにして無念にも虐殺された小西同志の遺志は、唯一、全労働者階級の解放にむけた共産主義運動の前進の中にこそ生かされることを確認した。この一年、県警の弾圧を自らを鍛えぬく糧とし、われわれは「戦争と革命」の八〇年代を真に闘いうる党建設を着実に進め、遺志に忠実に一歩を印したのである。

しかし、未だわれわれは革命的報復を完遂していない。小西同志の諸実践を全面的に継承し、発展させていかなければならぬ。私たちがいま、この偉大な先達の死についで追悼の意を表するとともに、寒村翁の思想を自らの実践に受け継ぐことにおいて、七〇年にわたる翁の闘いを無駄にせぬ情熱にふるいたたねばならない。

追悼 荒畑寒村



「死なばわが、むくろをつつめ戦いの 旗にそまたる赤旗をもて」

は、田中正造に頼まれ尾尾鉦毒事件を扱った『中村誠二史』を著わっており、翁の反公害運動への起点となるばかりか、資本主義批判の鋭い視点にたつこの著作は、わが国反公害運動の輝かしい原典といえよう。

さらに、社会主義と労働運動の結合を掲げ、山川均の協力の第一共産党以降の政治組織への関与は、壮年期にありながら、失望と挫折の時期だった。翁を裏切った改良主義の大御所たちは「素晴らしい人だった、組織的な人ではなかった」と語り、商業新聞は「孤高の闘士」を強調する。そうではないのだ。およそ一人の共産主義者が、自らとその思想に誠実であり、それ故激進なまでの思想的態度を、また組織的な態度を、思えばならなかったことを、思想と労働者階級を裏切りつづけてきた者にどうして論断できようか。

寒村翁の戦後の活動は、全国金属結成と初代委員長としての活躍、全共闘、反戦青年運動への支援、反公害を闘う若い世代の指導、小説や歌をふくむ数多い著述、そして社会党・総評指導部にたいする厳しい批判、闘う青年労働者への暖かい理解であった。個人としての名譽を好まず、終生階級闘争の現実をなで己の思想に忠実だった偉大な革命家を先輩として仰ぐことのできる私たちは、自らの思想と運動に、たしかに誇りを感ずることができよう。

願わくば、寒村翁よ、われらのゆくり手を見まされ。(K)

われわれは、その志半ばにして無念にも虐殺された小西同志の遺志は、唯一、全労働者階級の解放にむけた共産主義運動の前進の中にこそ生かされることを確認した。この一年、県警の弾圧を自らを鍛えぬく糧とし、われわれは「戦争と革命」の八〇年代を真に闘いうる党建設を着実に進め、遺志に忠実に一歩を印したのである。

「死なばわが、むくろをつつめ戦いの 旗にそまたる赤旗をもて」

は、田中正造に頼まれ尾尾鉦毒事件を扱った『中村誠二史』を著わっており、翁の反公害運動への起点となるばかりか、資本主義批判の鋭い視点にたつこの著作は、わが国反公害運動の輝かしい原典といえよう。

さらに、社会主義と労働運動の結合を掲げ、山川均の協力の第一共産党以降の政治組織への関与は、壮年期にありながら、失望と挫折の時期だった。翁を裏切った改良主義の大御所たちは「素晴らしい人だった、組織的な人ではなかった」と語り、商業新聞は「孤高の闘士」を強調する。そうではないのだ。およそ一人の共産主義者が、自らとその思想に誠実であり、それ故激進なまでの思想的態度を、また組織的な態度を、思えばならなかったことを、思想と労働者階級を裏切りつづけてきた者にどうして論断できようか。

寒村翁の戦後の活動は、全国金属結成と初代委員長としての活躍、全共闘、反戦青年運動への支援、反公害を闘う若い世代の指導、小説や歌をふくむ数多い著述、そして社会党・総評指導部にたいする厳しい批判、闘う青年労働者への暖かい理解であった。個人としての名譽を好まず、終生階級闘争の現実をなで己の思想に忠実だった偉大な革命家を先輩として仰ぐことのできる私たちは、自らの思想と運動に、たしかに誇りを感ずることができよう。

願わくば、寒村翁よ、われらのゆくり手を見まされ。(K)

大胆に出し、卒直に彼らの側に一歩近づけば、彼もわれわれの側に一歩近づいてくる。が、われわれは彼らに確信的に語れるだけの内容を未だ完全に獲得しきれない。今後、われわれは彼らと相談してこれをつくりたい。

以上二点に関して何の迷いもない。われわれはこの闘いに断固たる確信をもつて進撃して行く。

実践してみたいことには、われわれの方向が正しいのか否か証明されない。当面の党活動において、われわれが最悪の失敗をしなかったら、誤りではない。こうして下層未組織労働者に役立つ理論、役に立つ組織をつくりたい。誤りではない。

「誤りをたまたまは行かざるべき」毛沢東

「北方領土」問題は、日本プロレタリア階級とソ連プロレタリア階級の革命にとって重要な課題である。ソ連米日西欧間の帝国主義対立の激化、戦争の要素の増大のなかで、「北方領土」問題はソ連・日本のプロレタリア階級が革命的祖國敗北主義の態度を貫き、国際主義的団結を培うことができるか否かを問うと同時に、それ以上にそれらの国の被抑圧少数民族の解放闘争と正しく結びつけることをもって、自己の解放を達成することを問うている。こうした立場と態度から、われわれは日・ソプロレタリア階級の団結と、被抑圧国内少数民族との連帯を求め、その重大な試金石である「北方領土」問題に対する態度を鮮明にしていきたい。

序 「北方領土」問題に対する基本的態度

日本帝国主義はベトナムのカンボジア侵略・併呑、ソ連のアフガニスタン侵略、そしてポーランド東欧諸国人民の民族解放、民主主義革命の前進といった一連の事態に対し、反ソ排外主義を煽り、対ソ戦争準備を全面におしだし、体制的危機、階級矛盾の深化を「城内平和」をもって圧殺・統合し、植民地支配と権益防衛の強化・拡大を強めている。軍備拡張・改憲攻撃を、民族排外主義、「国益・国防」の大合唱をもっておし進め、現代修正主義・日共を無害な（それ故、ブルジョア階級にとって有効な）反対派として包摂しつつ、連合政権「ブルジョアの労働者党育成と、右翼的」「労働統一」産業報国会によるブルジョア階級独裁擁護・帝国主義的社会的支柱をうち固めんとしている。

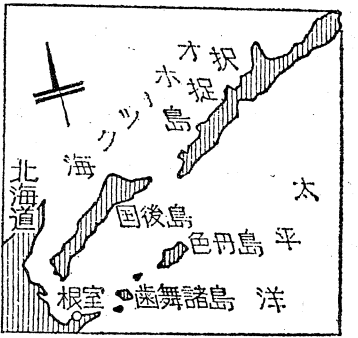
「北方領土」問題とアイヌ民族の自決権について

伊東 東峰

戦闘的左翼の諸偏向の問題

それ故、われわれは「北方領土の日」に重大な関心を払う（「革命の旗」三三三三）

目次 (1) 序 「北方領土」問題に対する基本的態度 「日帝の領土拡張要求と「北方領土」」 (2) ソ連の「北方領土」併合と覇権主義 (3) アイヌ等北方先住諸民族の自決権と「固有の領土」正当な領土論批判 (以上38号(4月20日))



島問題の正しい解決としてうたわれ、プロレタリア階級人民の共通の課題とならなければならないのは、アイヌ民族をはじめとする北方先住諸民族の解放闘争への支持と連帯である。

同時に、日帝の反ソ排外主義に合流し、祖國擁護・社会排外主義への立志社・労働党を先頭とするエセ・毛派の転落を批判し、「北方領土返還」を、大国民運動として組織し、労働者階級・人民を民族排外主義のクビキに縛りつけんとする策動を徹底的に批判してきた。他方、ソ連帝

朝鮮人民の民族解放闘争に対する「血償」論による急進民主主義（反スタ・トロツキズムとの結合による朝鮮人民の自主的平和統一への敵対）、そして沖繩解放闘争における「左翼併合主義（沖繩奪還）論を典型として。

われわれは、現代修正主義に転落した日本共産党に対する革命的党派として、日本共産主義運動の前面に登場し、新たな革命的階級闘争を闘いぬいてきたが、反スタ・トロツキズムの影響と、急進民主主義の傾向を主要な側面としてもつていたが故に、第二次ソ連に至るまで、マルクス・レーニン主義の見地を真

国主義の民族排外主義は領土拡張要求（それは、それらの「領土」が「本来の」古来からの日本の領土であった」とするイデオロギーによってついつつと裏打ちされ）として強められていったのである。「北方領土」こそ、第一に帝国主義者どもの領土拡張主義（北洋漁業資源への権益拡大と対ソ戦略上の拠点をめぐりつつ）と、第二に労働者階級・人民をそうした帝国主義の野望に屈服させ、民族排外主義のもとに統合し、第三に、反ソキヤンペーンを鼓吹し、対ソ戦争の前面におしだし、軍備拡張・戦争準備への国民動員をめぐり、第四に、こうして体制的危機の深まりを労働者階級・人民への犠牲の転化と、階級矛盾の陰に隠し、あわせて国内少数民族問題の矛盾をおしつぶさんとする帝国主義の環を構成している。

「国論」を分たしたかの「建国記念日」制定とは一八〇度異なり、「北方領土の日」は（その日をいつにするのかという茶番劇をへて）「国民的合意」議院内閣野党すべての合意のもとに決定された。ブルジョア階級どもは「建国」「元号」「靖国」の一連の天皇制攻撃を、この「領土」問題とからめることに最大の関心を払い、

1 日帝の領土拡張要求と「北方領土」

一九六五年、日韓条約締結、朝鮮再植民地攻撃の開始をマルクマールに本格化した日帝の侵略反革命は、国家イデオロギーによる統合をおし進めつつ、飛躍的に強化された。この国家主義・排外主義攻撃の最も有効な手段が「領土問題」に他ならない。国家を階級的存在、歴史的な階級闘争の中で形成されてきたものとしてみることを否定し、ブルジョア国家論の「主権・人口・領土三身一体」のごとく、国家の超階級的歴史性、つまり自然性の中に国家と人民を封じこめるイデオ

南千島とハボマイ、シコタンに第八師団を配備し、対ソ・対米軍事網を形成した。こうした北方軍事拠点に対し、ソ連は日帝の降伏と同時に南下し、南樺太（サハリン）と千島（クリル）列島に進駐し、ハボマイ、シコタンに至るまでの諸島を占領した。これは、連合国側でのソ連の対日参戦をめぐり引きつりとして決められたヤルタ密約を根拠としていた。それ故、米帝・GHQは一九四六年一月、若干の外辺地域を政治上、行政上、日本から分離することに同意する覚書で、事実上、千島のソ連領有を認めていたのである。カイロ宣言・ポツダム宣言もこのヤルタ密約に規定されていたと同時に、その後の対日講和条約（いわゆるサンフランシスコ条約）の珍奇な解釈をもうみだすことになったのである。

一九四九年の中国革命の勝利と、五〇年朝鮮戦争の勃発の中、米ソ「冷戦」構造を背景に戦後革命の昂揚と植民地階級人民の民族解放闘争の前進に対し、「戦後処理」を急ぎ、日本を「アジアの反共防波堤」とするため、対日講和条約と日米安保条約締結を強行したアメリカ帝国主義と当時の吉田政府は、一つの「失策」を行った。それが講和条約第二条C項である。米帝は、強盗的取り決めにすぎない講和条約であることを理解しているが故に、第二条での沖繩の軍事属領化と引きかえに、第二条C項で、ソ連の千島の戦時占領とその継続を承認せざるをえなかった（それは、ヤルタ密約に明記されていたことでもある）。それ故、米帝の従属的同盟関係の中で復興・復活しつつあった日帝にとって、対ソ戦後処理はその枠内で進められなければならない。一九五六年日ソ共同宣言は、いわば対日講和条約が「片面」でしかなく、対ソ戦後処理の第一歩として調印された。そしてそこで討議された領土問題に

「北方領土」問題にうつらう。今日のこの問題は、第二次帝国主義世界大戦の戦後処理の過程で発生した問題である。とくに敗戦国たる日本帝国主義の領土と、それに対するソ連・連合国による戦時占領の処理をめぐって、今日までひきつがれてきたといえよう。それ故、日ソ双方とも強盗に強盗なりの理由があった。戦前の日本帝国主義は、周辺少数民族を統合するにあたって、天皇制権力のもとでの日本民族による優越的支配・絶滅的同化攻撃のうえに、近代民族国家として形成された。そして、沖繩を南方前進基地とする一方、北海道から千島列島を北方軍事拠点として、北太平洋の海権のカナメとした。ウルフ以北の北千島には第九師団、エトロフ、クナシリのシコタンは千島列島に含まれないことが確認されはしても、エトロフ、クナシリは問題とされないほど、千島列島の一部といわれる南千島を構成することは「常識」であった。ダレス発言「一九五一年九月同様に、全権大使首相吉田もエトロフ、クナシリがカイロ宣言での「暴力および強欲により略取した地域」ではないこととを、日ソ外交史上から述べたにすぎない。更に、条約批准をめぐり国会においても、政府答弁はエトロフ、クナシリを南千島とした上で、南北両千島を二条C項の千島列島とする解釈を明言していたのである。（一九五一年十月および十一月）

と一対をなして、「エトロフ、クナシリは千島列島に含まれず」とすることによって二条C項から除外し、ソ連の四島占領を不法・不当の領有と印象づけることに力点があかれ、かつ一度は講和条約で手ばなした自らの領土を回復せんとする帝国主義的野望をアケスケに表明したものに他ならない。そしてこれを後押しするようにアメリカ帝国主義は、日ソ共同宣言が発表される直前に「米国は、歴史上の事実を注意深く検討した結果、クナシリ・エトロフ両島は常に固有の日本領土の一部をなしてきたものである（九月國務省覚書）ことを声明したのである。以下、三七号（四月五日）へつづく

「北方領土」外交・条約史 日本国の主権は本州北海道九州及四国並吾等の決定する諸小島に局限せらるべし」と領土問題について宣言。一九五二年四月二十八日発効 講和条約 一九五二年四月二十八日発効 講和条約 第二条（領土の放棄）C項において「日本国は、千島列島並びに日本国が一九〇五年九月五日のポツダム条約の結果として主権を獲得した樺太の一部及びロシア領クリル千島群島を日本国に譲ることを決定。一九〇五年九月五日調印 日露講和条約 日露戦争（一九〇四～〇五）勝利によるいわゆるポツダム条約で、日帝がロシアから、サハリン南半部（南樺太）を割讓する。一九四三年十一月二十七日 カイロ宣言 ルーズベルト、チャーチル、蒋介石による「連合国」の対日戦争の目的を明らかにしたもので領土不拡大の原則を掲げ、自らの「正義」を訴えつつ、満州、台湾等の中国への返還、朝鮮の自由・独立と「日本国はまた、暴力および強欲により日本国の略取した他のすべての地域から駆逐される」ことを明記。一九四五年二月十一日署名 ヤルタ協定 米英ソによる秘密協定（公表は一九四六年二月十一日）で、ソ連の対日参戦の決定とそれに伴う対日降伏条件が取り決められた。それは「樺太の南部およびそれに隣接するすべての島は、ソビエト連邦に返還する」千島列島は、ソビエト連邦に引き渡す」ことが定められた。一九四五年七月二十六日署名 ポツダム宣言 八月十五日に日帝が敗北を認め受諾したもので、六項で日帝降伏後の政策と七項でそのための占領を記し、八項で「カイロ宣言の条項は履行せられるべく、又いかなる領土問題も存在しない」と声明。一九七三年十月十日署名 日ソ共同声明 「双方は、第二次大戦の時から未解決の諸問題を解決し平和条約を締結することが、両国間の真の善隣友好関係の確立に寄与する」と声明。これを日帝は「未解決の問題とは領土問題である」とす

革命的 反戦闘争の前進にむけて

論 戦

単一のマルクス主義党創建のために

第一期シリーズ 15 △ 赤報派批判(上)

社会主義と労働運動の結合を放棄した革命観

赤報派は、今まで批判してきたブルジョア的諸派と同様、第二次ブルジョア的急進民主主義を克服することに成功していない。彼らは七回大会と異なり、九回大会を出発点として資本主義批判の重要性を提起しながらも、依然として党活動の實踐上においてそれを克服しきれずにいる。それは根拠がある。彼らは労働者階級の経済的隷屬を強調しながらも、党活動の方向は「労働運動を主眼点」として労働者階級と結びつかず、労働者階級を政治的・経済的闘争に立ちあがらせることを追求していない。すなわち社会主義と労働運動の結合を放棄している。これが彼らの資本主義批判をして、労働者階級の階級闘争から遊離させている根拠である。

はじめに

彼らは「革命戦争派」政治局軍事委員会、R.G.政治軍隊を組織基準とする」という戦闘的傾向に結びつけて、「急進民主主義の克服を、軍を組織する党への改組をめぐって実践」であると狭くとらえて、第二次ブルジョア的急進民主主義問題に一面化し、急進民主主義を温存させているのである。彼らが、急進民主主義を自己暴露している主張に「世界プロレタリアート独裁」「国際非合法党」がある。赤報派は自らを次のように規定している。「二・一八ブンドのスターリン主義打倒・反スターリン主義止揚、革命的マルクス・レーニン主義継承、国際非合法党建設」の路線を継承し、……党活動の基本内容を政治闘争におく国際非合法党建設の新たな段階を切り開くために闘っている。彼らが「世界プロレタリアート独裁」を党活動の基本内容にするという事は、われわれの「世界プロレタリアート共産主義革命の終局的勝利のためには、世界単一のマルクス・レーニン主義党が必要であり、単一の世界プロレタリアート階級独裁が必要である」と綱領草案」とはまったく次元が異なるものであり、帝国主義と世界プロレタリアート共産主義革命の

労働者階級の階級闘争から遊離した資本主義批判

ら遊離した資本主義批判

彼らは「自然発生的な大衆闘争に「プロ独・社会主義革命の宣伝・煽動」を接するといっただけであって、第二次ブルジョア的急進民主主義の「戦略・戦術」の代りにすでに労働運動の自然発生的に生じた綱領を持ってきているにすぎない」とわれわれを批判している。このことに彼らが労働運動から資本主義批判を遊離しているの資本主義批判を労働運動に生かそうとすると次のような限界がある。一(略)一たえば直接生産過程で所有の問題を提起した場合「賃金奴隷制度の廃絶」

者階級の経済的解放を実現し、階級を廃絶することにむけてブルジョア階級独裁の国家権力を打倒し、プロレタリア階級独裁を樹立する任務を明らかにするのではなく、逆に「革命戦争派の単一」を対置している。ここに彼らの権力問題に対する日和見主義が、厳としてある。日本労働者階級の緊切の任務から離れて「党活動の基本内容」を政治闘争におくことは不可能であり、現実の階級闘争からの召還を結果せざるを得ない。彼らは「革命的な路線は天から降ってくるわけではなく、党活動のなかで、実践の鉄火のなかで苦闘して作りあげねばならないものである(赤報二二号)」。これを一般論ではなく再度かみしめる必要があるだろう。まず以上の点を明確にしたうえで本題に入ろう。

あるならば、赤報派が「直接生産過程で所有の問題を提起した場合「賃金奴隷制度の廃絶」とスローガン化しようが、この要求を工場雇員に対して主張しても大衆を獲得しえない。これに対して「組合の闘いや経済闘争を階級闘争から開放することや「生産点での革命的階級闘争を切り捨てて否定してしまふ」ことではないとの言明がある。しかし彼らの留保にもかかわらず、実際は「賃金奴隷制度の廃絶」のスローガンの下での闘争以外に商品交換関係にある労働者階級の闘い、結果・組織を促し、この闘争においてその団結と組織化の能力を培い、教育し、訓練していく条件を生み出す。またこのように闘いが、

から召換することを結果させている。問題はこのような労働者階級の闘いを「搾取や抑圧」を強調して意味付与するのではなく、また「商品所持者意識」と切り捨てることでもなく、このような闘いを指導していく党の宣伝・煽動の内容が問われなければならないのである。マルクスは次のようにいっている。「自分たちはもろもろの結果とたたかっているが、それらの結果の原因とたたかっているのではないこと、下向運動の抵抗は強まっているのではないことを彼らは忘れてはならないのである。従って一時の休みもない資本の侵略や市場の変化からたえず発生してこれらへの避けがたいゲリラ戦だけに頭をつ

つこんでしまつてはならない。現在の制度は、彼らにあらゆる困苦をおしつけるが、それと同時にそれが社会の経済再建に必要な物質的諸条件と社会的諸形態を生み出すものであることを理解しなければならぬ。(賃金・価格・利潤など)。だからこそ、資本主義批判をプロレタリア階級の立場から行うとき、マルクスがいようように「労働者に一歴史的災禍を打破する能力を与え、打破せざるを得ないようにする物質的・社会的諸条件がついに資本主義社会のなかでどのようにつくられたかをこころよく論証すべきである。」(「ゴダ綱領批判」)。

マルクスは「生産の社会化」をどう把握したのか

労働者階級の闘いの形態をますます豊かにしていく、それが労働者階級の意識性を培っていく条件なのである。つまり、生産の社会化は資本主義の大規模生産によって、労働者階級を生産の社会的担い手として登場させると同時に、資本主義的所有様式と矛盾し階級闘争を激化させていく。このことからもわかるように、彼らが「雇主との闘争、直接生産過程においては、所有をめぐって階級闘争の根拠は存在しない」という主張は、現実の労働者階級の闘いをどのよう指導するのかが提起されたい。それは労働者階級の一切のあらわれをプロレタリア階級のための闘争として教育・訓練して、労働者階級の革命的攻撃の総力を発展させていくことである。この一環として日常不断の搾取者との闘争を一訓練場として指導し、援助していくこと、この重要性を彼らはつかみとれていない。彼らは「価値論と蓄積論を統一的に把握することにより、資本制の取得法則として明らかにしたところ、このことは明らかに12・18路線の共通の成果であり、画期的な内容であった。」(共産主義十六号)として主張している。

彼らは、全国政治新聞においても、ブルジョア階級独裁と諸階級の相互関係から、緊切に労働者階級の当面する任務を明らかにし、党活動の基本方向を常に明らかにすることを實際上放棄してあり、抽象的にしか問題をたてておらず、具体的な問題にたえず向き合っていない。それはソ連崩壊後激化の帝国主義の体制的危機の深化、そして第三世界人民の民族解放闘争の前進のなかで、ますます強まる日帝の戦争準備に対決する労働者階級の闘いの高揚をプロ独・社会主義革命へと指導することを放棄し、「世界プロレタリアート独裁」を一般的に対置していることにみとれることである。これが彼らの社会主義と労働運動の分離の帰結をしめしている。

政治理論誌「長征」

創刊号 一九七九年十月 定価六〇〇円
共産同(革命の旗)結成宣言/綱領草案/規約/第一回大会政治報告
第二号 一九八一年二月 定価二二〇円
第二回大会政治報告/綱領草案一部改正に関する決議/女性解放に関するテーゼ/連社会帝国主義について/今日の中国の対外・国内路線/マルクス・レーニン主義の単一党創建にむけての論戦(蜂火派、戦旗・共産同批判)
革命的な反戦闘争を構築するために
(序)革命的祖國北主義を貫く反戦反安保闘争の大爆発を戦取せよ。(1)進行する日帝の戦争準備の左翼の到達地帯とは何か。(2)革命的な反戦闘争の推進と労働者階級の任務。(4)迫りくる帝国主義戦争に對しプロレタリア階級独裁・社会主義革命の旗を掲げよ/中国の反米反覇権統一戦線戦術について 定価四〇〇円
都区職労働運動の革命的再生を、重要論文集 定価三〇〇円
シリス1、6、2、共産同東京都委員会発行 定価一〇〇円
赤流社 東京都世田谷区千歳郵便局私書箱四号 振替(東京)七七八七九四七 (電)〇三七八七九四七

赤流社